

若手研究者育成セミナー参加レポート

若手研究者育成セミナーとは？

武田 明子

(山梨大学大学院医工農学総合教育部 生命医学専攻
薬理学講座 修士課程1年)

「神経化学の若手研究者育成セミナー」とは、未来の神経化学を支える人材養成を目指した研究者交流の場であり、毎年、日本神経化学会大会に併せて行われます。今年で9回目の開催となる本セミナーに、私は今回初めて参加致しました。どのような雰囲気の中で、どのような講義を行うのか全く分からず、とても不安な状態で会場へ向かったことを今でも覚えています。しかし、実際に参加してみると、普段の研究生活ではできないような素晴らしい経験をさせて頂き、非常に有意義な時間を過ごすことができました。本稿では、「若手研究者育成セミナー」とは何か、さらには本セミナーの魅力とは何かについて、私を感じたことを皆様へお伝えできればと思っております。

本セミナーはまず5つのグループに分かれて、担当講師の先生方からそれぞれの総合タイトルに沿った講義を行って頂くというグループディスカッションから始まります。総合タイトルは、精神疾患や神経疾患などの病態生理学や治療的アプローチ方法に関する最先端の知見・技術だけではなく、研究者を目指している者なら1度は直面するキャリアイベントについてまで、どのグループも大変興味深い内容ばかりです。その中で私は今回、九州大学の岡素雅子先生と金沢大学の宝田美佳先生が担当して下さいだったグループB「女性研究者から見る神経化学」という総合タイトルの講義を希望しました。この内容が自分自身の行っている研究内容にとっても近く、また、来年には決めなければならない進路について、研究者としてご活躍されている女性の先生方からお話を伺うことができるチャンスではないかと思ったことが大きな理由です。

岡先生は「核やミトコンドリアのDNA酸化損傷による細胞死経路」について、宝田先生は「中枢神経系疾患におけるアストロサイトの役割」について、ご自身の研究内容をとても分かりやすくお話して下さいました。先生方の膨大なデータ量には驚きましたが、研究目的や重要なポイントが明確であり、人に伝えることが苦手な私にとっては大変勉強になりました。そして何より、とても楽しそうに生き生きと講義をして下さる先生方の姿勢から、研究に対する熱心な思いが伝わってきました。2日目のグループディスカッションにおいても、「辛いことよりも研究で得られる喜びの方が大きい」とおっしゃる先生方を拝見して、私も「研究の楽しさ」を周りに伝えることができるような研究者になりたいと思いました。

そして、このような少人数制のグループディスカッションが終わるとすぐに、別会場でのフリーディスカッションがあります。フリーディスカッションには、本セミナーの受講生はもちろん、講師や世話人の先生方からOB・OGの方々まで、非常に多くの研究者が参加します。とても穏やかな雰囲気の中で夜遅くまで自由に意見交換ができるので、グループディスカッションでは交流できなかった先生方・受講生の方々とも話す機会が多いというのが特徴です。ほとんどの研究者が初対面であるにもかかわらず、

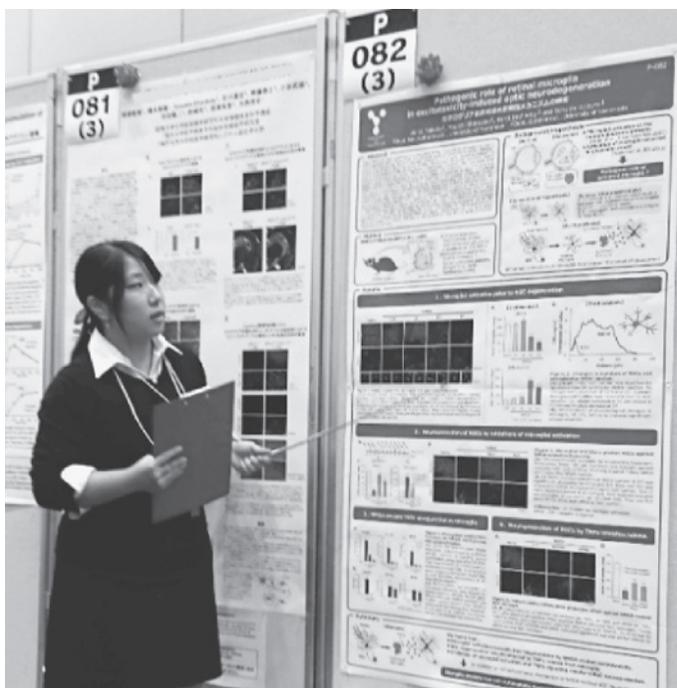
親しみやすい方ばかりだったので話題が尽きることはなく、予想していた以上に交流を楽しむことができました。他の学会等では見られない貴重な時間だと思っておりますので、少しでも本セミナーに興味を持たれた方は今後ぜひ参加して頂けると幸いです。

さて、以上のような流れで若手研究者育成セミナーが開催されるのですが、3日間を通して私が感じた本セミナーの魅力は以下の3点です。

- ①神経化学の研究において大変著名な先生方と近い距離で交流できる
- ②全国各地で研究者を目指す同世代の受講生と交流の輪を広げることができる
- ③自分自身の研究分野以外についての幅広い知識を深めることができる

常日頃からご多忙であり、他の学会等でもお会いできないような先生方と直接お話できる機会は滅多にありません。しかし、本セミナーでは研究の最前線でご活躍されている様々な世代の先生方から、今までの研究人生における色々な経験を伺うことができます上、今後の研究や進路の悩みについてアドバイスを頂くことができます。また、私と同じように研究に対して期待と不安を抱えている同世代の研究者と共通の話題で盛り上がり、お互いの研究について討論したことは本当に良い刺激となりました。私は現在、緑内障における神経・グリア連関についての研究を行っていますが、本セミナーでの意見交換によって私自身の神経化学分野における知識はまだまだ知らないことばかりであると再認識し、研究視野を広げることができたと実感しております。異なる領域の研究者の方々から得られた知識・技術も非常に新鮮であり、私自身の研究テーマに対する多角的な検討として大変参考になりました。今回お会いした研究者の方々との繋がりを大切に、今後もより良い研究を目指した情報交換を積極的に行っていきたいと考えております。

最後になりましたが、本セミナーを開催するにあたり準備・運営に携わって下さった神経化学の若手研究者育成セミナー関係者の皆様、今回参加レポート執筆の機会を設けて下さった日本神経化学会関係



者の皆様ならびに本セミナー世話人代表・副代表である国立精神・神経医療研究センターの株田智弘先生、藤原悠紀先生、そして日頃より温かいご指導・ご助言を賜りました山梨大学薬理学講座の小泉修一教授をはじめ、スタッフの皆様にご心より感謝申し上げますとともに、今後益々のご活躍・ご発展をお祈り致します。私は研究を始めて1年ほどの未熟者ではありますが、本セミナーで得られた経験を活かしながら日々研究者として成長できるよう精進し、グリア細胞を切り口とした新たな脳機能制御メカニズムの解明に挑戦していきたいと思っております。